

けんしゅうしましよ

2号

H28. 6. 20
文責 永井

5月23日(月)に、第1回 教師力アップ研修「キーワード方式で、国語の授業をつくろう」を行いました。今回は、佐藤敬示先生を講師に、文学的文章の授業づくりについて研修しました。4年生の『一つの花』『ごんぎつね』のキーワードをみなさんと検討しました。



キーワード方式の授業づくりについて

<授業の進め方>

1 10問テスト

- ・教科書に書いてある誰もがみつけられる問いから、教材の核心に迫る問いまでの10問
(例) ①作者は誰ですか ②登場人物を書きましょう ③季節はいつですか ④仕事は何ですか
⑤主人公が持ち出したものは何ですか ⑩このお話の不思議なところを書きましょう

2 段落番号をつける

- ・形式段落、意味段落、文学的文章であっても、形式段落をつけた方が指導しやすい場合もある。

3 ノートをつくる

- ・ノート右側の余白に「タイトル」、作者(筆者)名を書く。
慣れてくると、朝の時間や休み時間を使って書けるようになる。

<キーワード方式>

1 キーワードの扱いは2種類

- ①要約のため
- ②行動や心情に迫るため

2 授業のねらいに応じてキーワードを探す(3つ程度)

- ・授業のゴールは同じでも、授業者のねらいによって違ってくる。
- ・学年研修などでキーワードを検討することは、有効である。

3 キーワードを配置して、授業の流れをつくる

研修を終えて

授業を成立させるためには、「教材研究」「授業方法研究」「児童研究」3つの研究が必要だと言われます。研修の前段では、森の里小学校時代に「課題一覧表」を作成して、児童分析を行って授業をしていたことが国語の授業づくりの糧になっているというエピソードを紹介していただきました。1時間の研修会でしたが、『一つの花』の教材研究、「キーワード方式」の授業方法、そして児童研究の重要性を再確認する大変有意義な研修になりました。講師を務めてくださった佐藤先生、ありがとうございました。